

親子の居場所「子育てと仕事楽しむママの家」



NPO法人Mam's Style
住所: 前橋市敷島町241-2 2F
(1F MATE CAFE)

駐車: 看板横縦列2台
オープン: 火~金
(月土日祝日・長期休みクローズ)
時間: 10:00~14:00

*流動的に変わりますので最新情報のご確認を。
090-6008-3934(桜井)
HP: <http://mamsstyle.org>
mail: npo@mamsstyle.org



 @npomamsstylegunma

 @npomamsstylegunma

 @Mamsstyle

 @mamsstyle

LINE登録 

寄付品受付中

マムズスタイルは服や本など地域資源をサイクル(循環)し、コミュニティ・女性や困窮家庭支援へとその力を転換しています。家庭のご不要を社会で生かしてみませんか。

■寄付したい方 ご連絡のうえ下記住所までお持ちください。

- ・食品(保存がきくもの)、野菜やお米、生活用品(せっけん、洗剤など)
- ・ベビー(上下分かれた服)、キッズ服(~160)*その時のシーズンの服を受付
- ・書籍(絵本)、おもちゃ

■寄付品を無償で欲しい方(困窮家庭対象)

お気軽にご連絡ください。個別対応でお渡しています

■寄付品を購入したい方

下記居場所で販売またはメルカリshopでご購入いただけます



子育てと仕事楽しむママの家 秋

NPO法人Mam's Style



あなたもできる
お洋服の循環生活

■ 令和三年度活動報告 ■

敷島町に引っ越しをしました。遊びと交流、古着の循環、食品と就労支援を利用する方が「子育てと仕事楽しむママの家」に足を運んでくれています。そして利用の方を迎えるのも子育て中のママ。

活動内容

■ 子育てと仕事楽しむママの家
一年の半分ほどオープンできました。毎週火曜は「子どもの日」。読み聞かせや季節の歌を歌う「親子ミニタイム」、汁とパンの提供の「一汁ごはん」があります。親子はもちろん、ママだけの利用も大歓迎。

■ 古着の循環

古着や食品、本を寄付くださった方は一五〇名いました。個人をはじめ様々な機関から寄付がありました。

■ 食品や縫製の就労支援

困窮家庭に食品や消耗する生活用品などを令和三年度は十八回提供しました。

縫製に取り組む方の声

「ミシンが苦手な私でしたが、スタッフの方が丁寧に教えてくださいました。縫製を通して、他の方や社会に役に立てたことが嬉しく感じました」

■ 子ども商店株式会社

夏休みに十四名の小中学生が商売を学び、小売り、ものづくり、サービスに分かれてお店を前橋リリカに出しました。チームで取り組み、お客様からたくさん「ありがとう」をいただきました。



古着活用 100%を 目指して

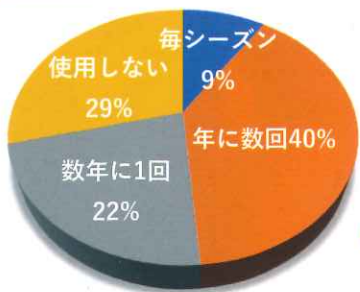
古着アンケート実施結果！

子どもの古着使用は大人の1.5倍。「毎シーズン」使うヘビーユーザーは大人の3倍でした。一方ほとんど使用しない子どもは約40%。もったり買ったりする場所が近くにないのが理由でした。もし全ての子どもが古着を使うようになれば、もっと人の繋がりや家計にも助かり、環境にもよりよい循環が生まれるはず。

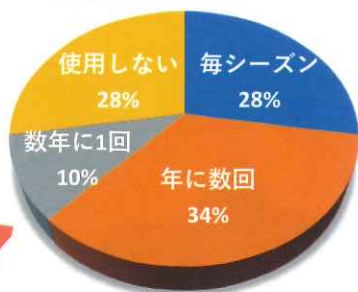
古着購入/着用頻度「古着は子どもの着こなしに重宝！」



大人



子ども



毎シーズン使う子どもは大人の3倍
購入場所は店頭がほとんど

古着を使う理由は？



1 状態
古着が気に入らない！

2番目 機会
人からもらう♪買える場所が近い

3番目 価格
新品より安い！

4番目 環境
環境に配慮できる



ママズの古着サブスク利用中！

キッカケは他の子育て支援でママズさんの存在を知り古着循環の事を知りました。最初の訪問は、お下がり寄付する為に伺いましたが、沢山の服や雑貨があり自分では中々購入しない色やデザインに挑戦出来るのでは？と思い始めました。実際に挑戦して今後の参考にしています。

*6月～7月アンケート調査 76名回答

Leader Interview



まきばプロジェクト
秋山麻紀



伊勢崎市のストリートマーケットからコロナ禍を経て、キッチンカー事業を県内各地へ展開。現在に至る道のりを「子育てと仕事」「経営」の視点でインタビューしました。

■今の状況を変えられるのは自分しかない
茨城市出身。各地を転々とする転妻で、子どもが小さい頃にはゴルフ場でキャディーとして働いていました。2010年、伊勢崎市に移り住むと同時に1日2回と決めてブログ更新をスタート。身の回りの出来事やお出かけ場所を紹介すると月20万アクセスに。

そんな秋山さんの今に通じるきっかけは2011年東日本大震災でのご実家の被災。誰かを悪者にした報道が目につき、「誰のせいにもしない、今の状況を変えられるのは自分自身しかない」と強く思ってから個人が地域のなかで小商いできる仕組み、ストリートマーケットへと取り組み始めます。これまでのブログが下地となり、「知らないところで知り合いが増え、何かやりたいと思った時には周りに人がいた」と言います。それからは平日はフルタイム、土日に事業という忙しい生活に。

夫からは「それはお前がやる必要あるの？」と言われたことも。しかし諦めずに毎日自分のやりたいことを言い続け、今では自分が迷うような局面で夫が後押しをしてくれる一番の理解者になりました。

■地域の人々が地域を生かせる存在に
地域の人それぞれができることを持ち寄り、自助努力によって場が成立するマーケットは、商品や現金が手元で回ること個人や地域が抱える課題を解決できると秋山さんは考えています。いま県内各地で事業を展開していますが、「楽しんでほしい」「出店事業者さんが稼ぐ」という他者への思いが成功へと導いているのとても感じます。起業のきっかけとなった「自分で自分を生かす唯一無二の存在」は今も秋山さんの自分軸として貫いていますが、多くの地域にとっても改めて、自分たちが自分たちの地域を生かす唯一無二の存在なのだ気づかせてくれるのではないのでしょうか。

子育て中で自分を生かしたいと考えているママにとっても自分に置き換えられるお話で、また事業者としても貴重なお話をお伺いしました。

